

# 臨床解剖学

担当指導医師

●本学

教授：木村 英二

学修方針（実習概要等）：

医師は、人体の正常構造を三次元的かつ階層的に十分理解したうえで、診断・治療・侵襲的手技を安全に遂行することが求められる。肉眼解剖学は、臓器・血管・神経・筋骨格系の立体的配置および相互関係を直接観察し考察する学問であり、外科系診療、内科系診療、画像診断、救急医療、神経診察など、あらゆる臨床領域の基盤となる。本実習では、学生が自ら観察対象領域を選択し、計画的かつ継続的に肉眼解剖学的観察を行うことを通じて、正常人体構造の理解を深化させるとともに、臨床判断に耐えうる解剖学的思考力を養うことを目的とする。あわせて、ご遺体を用いた医学教育の意義を理解し、スチューデント・ドクターとして主体的かつ責任ある態度で実習に参画する能力を身につけることを目的とする。

教育成果（アウトカム）：

本実習を通じて、以下の能力を身につけることができる。

- 1) ご遺体を自ら解剖し、対象となる臓器・血管・神経・筋を剖出・同定し、その立体的配置および相互関係を説明できる
- 2) 解剖学的構造を、臨床症状・画像診断・侵襲的手技に結び付けて、その関連性を論理的に説明できる
- 3) 自ら設定した課題に基づき、計画的に肉眼解剖を実施し、観察と考察を遂行できる
- 4) 解剖学的破格や個体差を臨床的リスク要因として認識して説明できる
- 5) ご遺体を用いた実習において、医療人として適切な倫理観と責任ある態度を示すことができる

（ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8）

到達目標（SBOs）：

1. 肉眼解剖学実習における基本的な剖出手順および安全管理について説明できる。
2. 主要な臓器・血管・神経・筋の位置関係および走行を、立体的に説明できる。
3. CT・MRI等の画像所見と肉眼解剖学的構造を関連づけて説明できる。
4. 解剖学的構造の破綻や変異が、どのような臨床症候につながるかを説明できる。
5. 自ら設定した観察対象領域について、3週間の実習期間を有効に活用し、責任をもってこれを完遂することができる。

実習内容：

1. ご遺体を用いた正常人体構造の剖出と同定、観察と記載
2. 観察対象領域における層構造、血管・神経走行の詳細な検討
3. CT・MRI等の画像と肉眼解剖所見との対比
4. 解剖学的構造と臨床症候・手技・合併症との関連性の検討
5. 解剖学的破格・個体差に関する観察と考察

## 6. 観察内容の整理および口頭発表（プレゼンテーション）

### 注意：

- 実習室内へは学生本人のみの入室を原則とし、許可なき第三者の立ち入りは認めない。
- 対象とする解剖学的領域は、学生本人の希望に基づき実習開始前に教員と相談のうえで決定する。
- 決定した対象領域については、3週間を通じて責任をもって自身で解剖を完遂し観察を行うこと。
- 実習内容の所見を記録し、教員がこれを評価してフィードバックを行う。
- 実習室では、敬意と感謝をもってご遺体を適切に解剖し、安全管理を徹底すること。
- 時間厳守とし、医学教育の場にふさわしい態度・身だしなみを遵守すること。
- 本実習は、学修意欲および主体性の高い学生を対象として実施する。

### ・ 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的  |
|------|----------|----|-------|
| 実習   | 解剖実習セット  | 3  | 解剖学実習 |
| 実習   | 実体顕微鏡    | 3  | 解剖学実習 |